

# → 再利用社会 へ

## 皆さんの協力が必要です

現在、家庭から出される燃やせるごみは有害物質の排出基準に適合している苦小牧市の処理施設で焼却し、燃やせないごみは埋め立て処理などを行っています。

ごみを燃やすと二酸化炭素ガスが発生し、地球温暖化の原因にもなり環境への影響も心配されます。また、このまま埋め立てを続けることは処分場を拡大していかなければなりません。ごみを燃やすための燃料費や処分場を造成する経費などを考慮した結果、ごみの有料化に踏み切る市町村が増え続け、本年4月現在で全道の85%の自治体が有料化を実施しています。

### 有価物として収集

安平町で家庭などから排出、処理されたごみは、平成18年度で3,426トンを減らした。全国で1年間に排出されるごみの量は5000万トンを超えています。

国ではごみの再資源化に向けた法律の制定や整備を行い、市町村ではごみの分別による減量に向けた取り組みが行なっています。ごみの排出量を減らすには、地域住民の協力がなければできません。一人ひとりが正しく分別することが必要です。

増え続けるごみに対して、私たちはどう対処したらよいのでしょうか。

安平町と厚真町で構成する安平・厚真行政事務組合では、第1から第4水曜日を「資源物」の日と決めて収集を行なってきました。

現在、組合ではガラスびん、空き缶、ペットボトル、紙パックを集めています。一部回収しない物もありますので、平成19年7月発行の「ごみ分別ガイドブック改訂版」でご確認ください。

安平町と厚真町の各家庭から集められた空き缶は業者に売却され、平成18年度には347万円の収入になりました。これらの収益金は組合の運営経費などに使われ、それぞれの町の負担軽減にも役立つ

います。



### 再利用しやすい形に

「びんやペットボトルはふたをはずして組合指定の袋に入れて出しましょう」とガイドブックに記載されていますが、なぜでしょうか。

一度使った容器を再び製品化するには、品質が均一なことが大切です。ガラスびんの中に金属でできたキャップが混じっていると再びガラスびんにはなりません。同様に、洗って出すことをお願いしているのも、洗浄という行程を減らし資源物として再利用しやすい形にするためです。

#### 紙パック

中をさっと洗う。切り開いて、乾かし束ねる。(袋には入れない)



#### ペットボトル

キャップをはずして中をさっと洗う ※ラベルはそのままです。



#### ガラスびん

キャップをとる。中をさっと洗う。ガラスびん以外は混ぜない。 ※キャップや食用油のびんは燃やせないごみに出してください。



#### 空き缶

中身を残さず、軽く水洗いする。アルミ缶のキャップをはずす。(キャップは資源物の袋へ) ※食用油や2リットルを超える缶は燃やせないごみへ出す。



**安平・厚真行政事務組合の指示に従った方法で、正しく分別して出してください。**

◎資源物として回収できないものもありますので「ごみ分別ガイドブック改訂版」で確認してください。